

平成 27 年度の県内発掘調査の概要

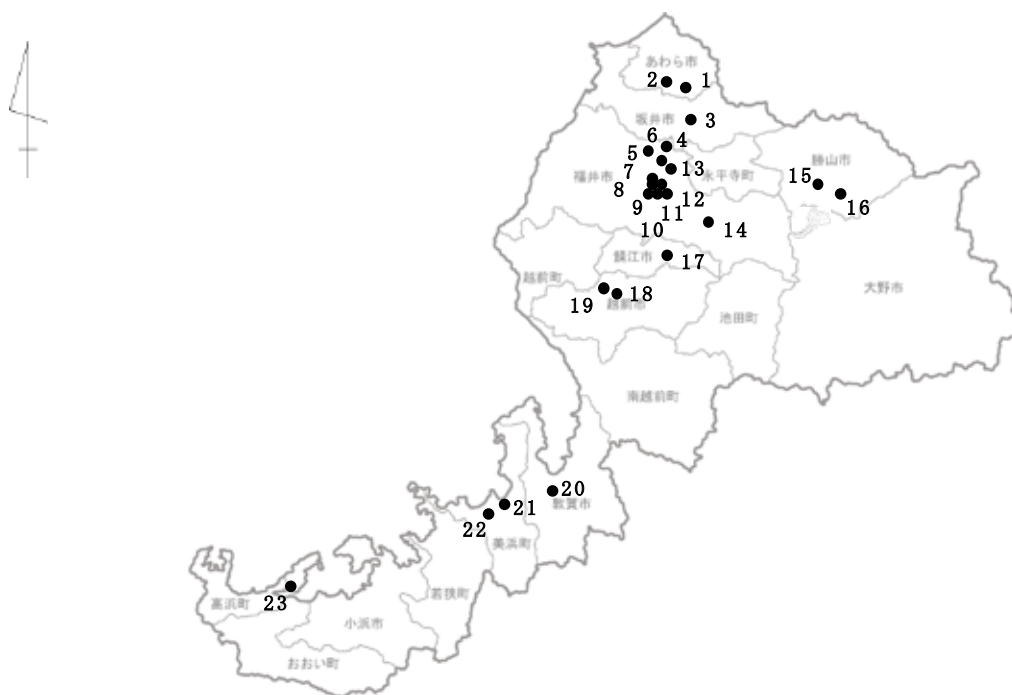
平成 27 年度の福井県の発掘調査件数は、県の事業 7 件、市町の事業 16 件の計 23 件です(資料未掲載遺跡 1 件含む)。これまで発掘調査件数はやや減少傾向にありましたが、北陸新幹線建設事業に伴う大規模調査が始まりつつあり、調査面積はこれから格段に増加していくと予想されます。

さて、平成 27 年度の調査例をふりかえると、縄文時代では、福井市開発遺跡において、縄文時代晩期の土器を含む河川が見つかり、木の実の含んだ貯蔵穴も見つかりました。

弥生時代では、あわら市の南稲越遺跡において、弥生後期～古墳前期の掘立柱建物・土坑が見つかり、近畿・東海地方の影響を受けた土器が地元の土器といっしょに見つかりました。平成 28 年度は、さらに大規模な調査するので、その成果が期待されます。

奈良・平安時代では、あわら市御簾尾・東田中遺跡において、古代北陸道の駅家(三尾駅)に関連するムラ、いわゆる駅戸集落ではないかと考えられる建物群が見つかりました。越前市の深草廃寺は市街の中心部に位置し、古くから古代の瓦が出土していますが、はじめて寺に関連するような大型掘立柱建物が見つかりました。興道寺廃寺は、平成 27 年度に発掘調査は実施していませんが、県内屈指の著名な古代寺院であり、このほど数年間にわたる調査の成果がまとまったということで、美浜町さんに発表をお願いしました。

中・近世では、勝山市白山平泉寺旧境内、福井市一乗谷朝倉氏遺跡、福井城跡、美浜町国吉城などは毎年継続して調査を実施していますが、勝山市勝山城跡、坂井市丸岡城跡など、地元の城跡を丹念に調査した例も興味を惹かれます。これらの成果に一端に触れ、考古学に一層関心を深めていただければ幸いです。



平成 27 年度県内発掘調査地点(目次番号と同一)